

令和6年3月6日

令和5年度 第3回 大阪府立平野支援学校 学校運営協議会 議事録

大阪府立平野支援学校
校長 川村 典子

日 時	令和6年3月6日（水） 13:30～14:30
場 所	大阪府立平野支援学校 図書室（Zoomによるオンライン開催）
参加者	中村 清一（委員） 濱野 すま子（委員） 市場 達朗（委員） 谷藤 誠宏（委員） 中野 淳子（委員） 松本 理香（委員） 川村 典子（校長） 丸田 公司（教頭） 長谷川 真哉（教頭） 中川 忠彦（事務長） 橋本 伸彦（首席） 橋本 万以子（首席） 玉井 実加（指導教諭） 日置 優介（小学部主事） 飯塚 恵子（中学部主事） 杉本 琢哉（高等部主事）
議題等	(1) 令和5年度学校教育自己診断について (2) 令和5年度学校経営計画について (3) 令和6年度学校経営計画について
協議内容	(1) 令和5年度学校教育自己診断の結果に関し、改善項目の設定について首席より報告があった。 (2) 令和5年度学校経営計画の自己評価について、担当教職員より報告があった。 (3) 令和6年度学校経営計画について校長より説明があり、了承を得た。
意見等の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各学部から今年度の総括として、「新型コロナウイルスの扱いが5類に移行されたことに伴い、交流活動等の行事が再開できた。」との報告を受け、「各学部において教員と児童生徒との関係性はどのようなものか」との質問を受けた。各部主事より「児童生徒にとっては担任教員がもっとも安心できる、信頼できる教員ではあるものの、他学年や他学部の教員とも日常的にかかわる機会をよくある」と回答をした。「児童生徒にとって、学校は先生がなんでもしてくれる‘いたれりつくせりの場’だけではなく、失敗したりチャレンジしたりできる‘学びの場’となるよう、子ども達が成長するタイミングを作っていってほしい」との発言があった。 本校にて取り組んだ働き方改革について具体例を挙げての報告を受け、「効率化した業務は結果的に子ども達のためになるのだから、これからも進めていってほしい」「資料のペーパーレス化は進めてほしいが、その資料の内容理解という面では工夫が必要なのではないか」との発言があった。 言語環境の整備に関する「No! マルトリートメント週間」の取り組みの報告を受け、「マルトリートメントという言葉は校内で共有するだけであればよいが、言葉としては外部の方にはわかりにくい用語ではないか」との発言があった。 リフトを使用した移乗支援についての報告をうけ、「とても良い取り組みである。使用している教員の身体的負担が減るという観点だけではなく、児童生徒の安全・安心につながっていることを、広くアピールしていってほしい」との発言があった。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度学校教育自己診断 令和5年度学校経営計画及び学校評価 働き方改革アンケート 令和6年度学校経営計画
備 考	・傍聴者なし